

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202494		
法人名	有限会社グループホームカナリアの家		
事業所名	カナリアの家ファミリア		
所在地	長崎県佐世保市白岳町1398-8		
自己評価作成日	令和5年6月24日	評価結果市町村受理日	令和5年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に対しては、ご自分で出来る事を一つでも減らさない様に 利用者様への声掛け、支援を心掛けています。又関連事業所に診療所がある事で医療との連携が取れ健康面で守られた環境にあります。

又スタッフ間では 信頼関係が築け、体調管理や 家族の病気等場面で気兼ねなく休暇が取れる様に配慮し、働きやすい職場となるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは内科クリニックを母体として、2つのグループホームを運営し、医療との連携を密にした支援に取り組まれており、家族の安心に繋がっている。施設長は各グループホームを兼任し、両ホームの介護サービスの質の管理や職員の配置、確保、スキルアップ等、管理者と協力しながら理念に掲げている家庭的な環境づくりに熱心に取り組んでいる。管理者はホームの職務に就いて3年程であるが、有資格者として介護職の経験や知識が豊富であり、職員からの信頼も熱い。ホームはコロナ禍により、家族の面会や外出、地域との交流を自粛しているが、入居者を守る姿勢を第一とし、感染状況に十分に配慮して以前のような戸外へ出掛ける機会を設けたいと考えている。最近入職した2名の職員が入居者に明るく優しく接する姿が窺え、入居者の顔が穏やかになる表情から、より一層の活気ある入居者の生活継続や環境づくりに期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を掲げ 何時でも確認出来る様に玄関に掲示している。	ホームの理念は、職員や外部からの訪問者の目に留まるよう玄関に掲げている。職員は、年度始めに自己評価を実施し、個人目標を立て、年度末に管理者とともに振り返りを行っている。理念に掲げている家庭的な雰囲気づくりに力を入れ、職員は日々入居者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加。コロナ禍以降は、地域行事に参加は見合わせている。近隣との交流は継続出来ており、タオルを頂いたり、畑で出来たミカンを頂く事あり。又隣家の猫が遊びに来て利用者様が喜ばれる場面あり。	ホームは自治会に加入し、回覧板の受け渡しを通じて近隣住民と顔見知りの関係づくりを図っている。また、運営推進会議の構成メンバーである町内会長や民生委員と情報交換したり、老人会や母体クリニックの患者を対象に地域の公民館で健康講話を実施する等、地域に向けてホームの専門性を活かした取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の「よかよかネット」に参加。R5.2.4にはスタッフの看護師が地域公民館で健康講話を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により会議が開催できなかったが、今迄の関係性により情報交換は出来ている。今年度7月より対面での会議開催を予定している。	コロナ禍により、運営推進会議は書面会議にて実施していたが、今年7月より対面での会議を再開した。町内会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員が構成メンバーとなり、地域の情報交換や、ホームにおける入居者の活動報告のほか、参加者からの質疑応答など情報共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所や行政担当者、包括支援センターと連絡を取り合う様に心掛けています。又、新入所者のケアプラン点検が行政より行われた。R4.11実施指導。R5.1スタッフがコロナ感染時は保健所に指示をもらい、現在も感染症対策研修にも参加し連携をとっている。	管理者は、生活保護受給者の手続きや医療連携体制加算、居宅療養管理加算等、各種手続きに役所へ出向いたり、地域包括支援センターからの依頼を受け、地域住民や母体クリニック受診者向けに看護師が地域公民館で講話をするなど日頃から関係を密にしている。コロナ感染状況を踏まえ、行政の指示を仰ぐ等、日頃から連携を図り、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束無し。但し帰宅願望顕著で安全が守れないと判断した場合ご家族様話し合いご理解のもと 玄関施錠する時あり。	運営推進会議終了後に同メンバーで身体拘束委員会を実施している。身体拘束に該当する行為は行っていない。1人の入居者が夕暮れ症候群の症状を発症すると、他の入居者数人が連鎖的に同様の行動をとることがあるため、家族に了承を得、入居者の安全に考慮した上で一時的に玄関に施錠をする対応を講じている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援の際些細な変化や日常会話を見逃さない様に努めている。スタッフの心理的な負担も鑑み苦手な事はスタッフ同士でカバー出来る雰囲気作りを大切にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議で権利擁護について考えを統一出来る様に勉強をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分説明を行い、問題が発生しない様に努めている。質問があれば何時でも尋ねて頂く様をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが特に活用なく、電話や面会等あった際にこちらから意図的に声をかけ意見を伺う様にしている。	職員は、入居者との日頃の会話の中から新たに得た情報や、家族との面会時に意向を聞き取り、職員がどう答え、対応したかを申し送りノートに記載し、必要に応じて個人記録にも残し、全職員で情報を共有している。玄関に意見箱を設置し、外部の意見を聞く姿勢を示している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員から意見や提案があった場合は、管理者より施設長に伝え反映させている。	月1回の職員会議では、職員間の活発な意見交換ができています。食事摂取量が少ない入居者の栄養補給飲料を口にしやすいようゼリー状にして提供し、美味しく食べることができるよう工夫したり、運営推進会議構成メンバーに試食をしてもらう等、職員の意見を取り入れながら入居者支援に取り組んでいる。職員の個人的な相談にも管理者が親身になって応じ、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて勤務状況を把握。スタッフ個々の職場環境条件の相談に応じるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な研修を受ける機会を作っている。働きながら介護福祉士等(この2年間で2名取得)資格を取る事が出来た。今後も配慮していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会を通じ情報交換を行っている。コロナ禍で対面によるものは無かったが7月には研修が予定され担当している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望の聞き取り、家族からの情報収集をし、安心して生活出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特にご家族の状況やお話を伺い、ご本人やご家族が入居後の生活に対する不安に、説明や要望の把握に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のご本人、ご家族の話、状態から情報収集アセスメントを行い、健康管理や日常生活の支援について必要な事、優先度の高い事等ご家族と相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とスタッフが挨拶や日頃のコミュニケーション、作業を一緒に手伝って頂く等相互のやり取りを行い人間関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活の様子や状態についてご家族と連絡を取り合い、面会時にも話を伺う中で、意向を確認し支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に対しては、コロナ禍で ガラス越し面会や、電話、手紙等で交流が途絶えない様にしたが、家族以外の馴染みの方との情報収集、支援が難しい。(今夏面会方法を変更予定)	コロナ禍になり、以前のような馴染みの人や場との関係性が薄くなっていることは否めないが、家族と窓越しの面会を実施するなど、徐々に以前のような関わりを支援できるよう取り組んでいる。管理者は、引き続き感染状況を把握しながら馴染みの関係継続の支援に繋げる意向である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方達を同じテーブルにする様にしている。スタッフが間に入り会話をして良好な関係になる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後立ち寄られる事はほぼ無し。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を大切にした支援を心掛けている。	職員は、入居者との会話の中で意向や希望を聞き取ったり、発語が困難な入居者の気持ちを汲み取って思いやりのある言葉で代弁するなど、本人本位に支援している。職員は、入居者の思いをホーム全体で支援に活かせるよう、入居者同士の関係性や支援の中で得た新たな発見や把握したことを申し送りノートに残し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中で一人一人の生活歴や好きな事を聞くようにしている。面会時家族様にも尋ねて把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を確認しスタッフ全員が把握しておける様に申し送り記事に残す様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングを行っている。又毎月のスタッフ会議で入所者全員の気付き、変化について話合っている。	職員は、担当する入居者のモニタリングを実施し、月1回2～3時間かけて全職員による担当者会議を行い、各入居者の気づきや変化について情報交換し、介護計画の原案作成に結び付けている。介護計画の見直し時に家族へ意向の聞き取りや、支援内容について説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを元に毎日チェックを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関による週1回の往診、又訪問歯科診療を通じて医療面での疑問を相談して情報交換を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問美容、病院受診時の介護タクシーの利用、介護用の靴等購入時は業者の訪問等必要に応じ対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診に加え、本人の状態に変化のある時はかかりつけ医に状態を報告している。	入居時にかかりつけ医について、入居前のかかりつけ医を継続するか希望を聞き取っている。現在は、全入居者が母体の内科クリニック医師を主治医としている。入居者は、週1回主治医の訪問診療を受けており、他科への受診が必要であれば主治医が紹介して家族が受診対応を行い、家族の都合に応じて職員が受診に同行支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホ-ム内の看護師から 入居者の健康上の問題に対する提案、介助方法等スピーディに発信され、伝達されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族の意向を確認し安心して治療を受けられ、スムーズに退院後の生活が出来るよう、依頼があれば入院先に出向き家族様と共に会議に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を十分考慮して主治医、看護師と情報共有を行い、指示を受け、状態に応じた介護が出来る様に努めている。	入居時にホームでの看取りについて入居者や家族に方針の説明を行い、意思確認とともに同意書を受領している。看取り期は主治医が判断し、家族への説明と意向を聞き、状態に応じたケアに取り組んでいる。経口栄養摂取が困難な時点で点滴等の処置や、必要であれば酸素吸入処置を導入する等支援し、看取り後はエンジェルケアを実施して家族にも寄り添う姿勢で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはまず主治医に連絡をとり指示を仰ぎ冷静な行動が出来る様に努めている。ホーム内看護師から、色々な情報提供を受け、各々自己研鑽に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難に関する情報共有はしているが、訓練が出来ずにいる。	前年度は、避難訓練の実績がない。今年度は、9月に消防署・点検者立ち会いの下で避難訓練を実施する計画である。尚、災害用BCPはおおむね完成しており、計画に沿って訓練を実施する予定である。	年2回の避難訓練を実施することが必須であり、内1回は夜間想定訓練が求められている。今後は消防署や点検業者の指導による消火訓練を踏まえ、「消火訓練」、「避難訓練」、「通報訓練」と、夜間想定訓練の確実な実施が望まれる。また、新人職員を始めとして全職員が初期消火を含む初期対応を確実にできるよう今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉掛けを心掛けている。	ホームの年間研修計画に沿って職員が交代で接遇マナー研修を受けている。参加した職員は他の職員に伝達する機会を設け研修内容を共有している。職員は、入居者が排泄失敗した場合や居室へ入室する際など、本人のプライバシーや意思を尊重した言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか等 言葉かけ、環境を作る等して自己決定や自発行為が出来る様に努めている。(EX:乾いた洗濯物をテーブルの上に置いておくと、自発的に畳んでいる方もおられれば、そのままにしている方もおられる。)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の行動や思いを察する様に心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	最低限の身だしなみに気をつけている。櫛で髪を梳いたりされる一方で、季節感が乏しく、人によっては、夏でも冬と同じ厚手のシャツを来たりされる為、同じようなタイプの薄手の物を準備するが、「盗られた」等の発言もあり、対応が難しい。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前の場面では 昼食のメニュー紹介をしてもらったり、食事が終わるとお盆拭きを手伝ってもらったりしている。	入居時に本人の嗜好やアレルギー調査を行っている。調理担当職員を中心として食事を作り、担当職員が休暇の日には食材を宅配業者に依頼している。誕生日には本人が好むメニューを全員で食べたり、手作りケーキを食卓に並べる等、入居者が食事を楽しめるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事前に1か月毎の献立を作成しバランスに工夫している。スタッフ会議時利用者の食事摂取、体重の増減、嚥下等確認しながら確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕食後口腔ケアを実施。磨き方等も観察。義歯のケアも再度スタッフが確認。必要な方には歯科往診もあり、連携をとっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布下着、布下着＋パット、日中リハビリパンツ＋パット、夜オムツ等各々に応じ対応。介助の必要性もスタッフ会議で確認している。	職員は、排泄チェック表に記録し、入居者の排泄間隔を把握して個別の支援に努めている。排泄用品担当職員が業者の展示会に出向いて排泄用品の種類や吸収量等の把握と検討を行っている。おむつ類の値上がりに伴い、おむつ使用量に関して家族の経済的負担に配慮しながら、日中・夜間における使用方法を細かく検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便は申し送りで確認し、座薬、内服等体質に考慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週月、木の午後入浴を実施している。	週2回、入浴を実施している。順番や湯温等に拘りがある入居者については、職員ができる限り希望に沿うことで入居者が気持ちよく楽しく入浴ができるよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状態に応じて休息して頂いているが、夜間安眠が出来るような働きかけを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新の情報を挟み、変更時には情報共有ノートに記録し共有に努めている。状態に変化がある時は主治医に指示を仰ぐ。眠剤、精神科薬剤は身体の負担に考慮し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中レクレーションの時間があり体操、歌、ゲームに加え、最近ちぎり絵作成を行い作品を完成。月刊誌に投稿したところ掲載された。又NHK等のDVDを借り懐かしい歌と一緒に歌う事もある。他、洗濯干しや、たたんでもらったり、お盆拭き等をお願いし役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出出来ず、今後検討していきたい。	コロナ禍により、以前のような外出支援はできていない。今後、感染状況を把握しながら安全に外出できる体制を整えた上でコロナ禍以前に外出し入居者と一緒に楽しんだ「森きらら」に行ったり、花見に出かけるなど、季節を感じることができる外出支援を行う予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持されている方はいない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が届くと本人様に渡し、お返事を書くように声掛けする。書字を好まれない方は塗絵カレンダーなどを送り、言葉は代筆している。電話は事務的な連絡であっても出来るだけおとなぎする様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に掃除を行っているが十分とはいえない。汚染時はきずいたスタッフが行う。季節の掲示物や、皆で作成したものを壁に飾っている。	共用空間の清掃は、掃除機かけ及び拭き掃除を行い、感染予防対策としてアルコールや次亜塩素酸水を使用し、手すりなど要所の消毒を行っている。職員とともに入居者が作った張り絵等を廊下やフロアの壁に貼り、明るい雰囲気のある共用空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに個人の席があり日中はそこで過ごして頂く。席は人間関係を見ながら、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物があれば持ってきていただくが、本人がその物に固執し危険な場合があり(例えばガラスの額に入っている絵等)なかなか難しい。	居室のドアには花のリースや入居者自身が塗った塗り絵を貼る等、個性豊かに設えている。居室には孫から貰った造花を所狭しと飾っていたり、簡素な居室であったり、各居室は入居者の特性や個性に応じた作りとなっている。火気や刃物類の他は以前から馴染みの物が持参でき、本人が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の無いバリアフリーになっている。		